

# 《専門科目》

## Ⅲ 群

I～IV群の試験科目から、2科目を選択解答すること。

ただし、同一群からは1科目を限度とする。

区 分	試験科目	問題番号	頁
Ⅲ 群	病態生理学	(15)	1 5
	薬理学	(16)	1 6
	臨床薬理学	(17)	1 7
	薬物治療学	(18)	1 8

受験番号	
------	--

【病態生理学】

(15) パーキンソン病の病因、治療方法、予後について述べなさい。(15点)

採点欄	
-----	--

受験番号	
------	--

【薬理学】

(16) つぎの a および b の各問に答えよ

(a) インバーシアゴニスト (逆活性薬) とは何か, 説明せよ。(8 点)

(b) グルココルチコイドの薬理作用の発現機序を細胞レベルで説明せよ。(7 点)

採点欄	
-----	--

受験番号	
------	--

【臨床薬理学】

(17)

(a) 糖尿病合併高血圧症例の降圧治療について説明せよ。(7点)

(b) 慢性心不全の薬物治療について説明せよ。(8点)

【薬物治療学】

(18)

1. 空欄(ア)～(オ)に適切な言葉を入れて文章を完成しなさい (1x5点)

抗うつ薬の使用においては、うつ状態の型により次のような選択をする。軽症から中等症のうつ病では、副作用が少なく安全性が高いという点から、(ア)が第一選択薬となる。6～8週間使用しても効果が観られないときには、他の抗うつ薬への変更を考慮する。第一世代のイミプラミン、アミトリプチリン、クロミプラミンなどや、第二世代のトラゾドン、アモキサピン、(イ)、(ウ)などが第二選択薬となる。一般に第二世代薬のほうが(エ)による副作用がはるかに少なく使いやすい。また、抗躁薬の炭酸リチウムや抗てんかん薬の(オ)やドパミン作動薬のプロモクリプチンを抗うつ薬と併用することによって、抗うつ効果を増強することが出来る。

解答欄

ア	イ	ウ	エ	オ

2. 原発性閉経後骨粗鬆症について概説しなさい (5点)

3. 肝硬変について概説しなさい (5点)